

プロフィール

2025年版・核弾頭データ追跡チーム(五十音順)

梅林 宏道(うめばやし ひろみち)

1937年生まれ。東京大学大学院博士課程修了。工学博士。1980年、大学教員を辞し、平和運動家・研究者として国際的に活動。特定非営利活動法人(NPO法人)ピースデポを設立、現在は特別顧問。RECNAの初代センター長(2012～15年)。

冨塚 明(とみづか あきら)

元長崎大学水産・環境科学総合研究科 准教授。専門は環境物理学。博士(環境科学)。被爆者問題、核兵器、原子力発電、安全保障などの課題に取り組んでいる。

中村 桂子(なかむら けいこ)

RECNA 准教授。NPO 法人ピースデポ研究員・事務局長を経て、2012 年 4 月より現職。平和・軍縮教育関連の多くのプログラムに携わる。著書に「核のある世界とこれからを考えるガイドブック」(2020 年、法律文化社)など。

役重 善洋(やくしげ よしひろ)

同志社大学人文科学研究所嘱託研究員。敬愛大学経済学部非常勤講師。専門は、キリスト教史、パレスチナ研究。著書として『近代日本の植民地主義とジェンタイル・シオニズム : 内村鑑三・矢内原忠雄・中田重治におけるナショナリズムと世界認識』(2018年)、Global Transformation of Christian Zionism(編著、2022年)、Decolonizing Politico-Religious Relations in Asia(編著、2025年)など。

湯浅 一郎(ゆあさ いちろう)

NPO法人ピースデポ代表。1949年東京都生まれ。1975年、東北大学大学院理学研究科修士課程修了。元産業技術総合研究所中国センター研究員。専門は海洋物理学。理学博士。著書に「海の放射能汚染」(緑風出版)、「平和都市ヒロシマを問う」(技術と人間)など。

渡辺 洋介(わたなべ ようすけ)

NPO法人ピースデポ研究員／大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員
慶応義塾大学にて学士および修士号(政治学)を、シンガポール国立大学にて修士(社会学)および博士号(日本研究)を取得。2017年より大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員、2018年より2019年までシンガポール国立図書館リサーチフェロー、2020年よりNPO法人ピースデポ研究員。

協力:

鈴木 達治郎(すずき たつじろう)

RECNA客員教授。NPO法人ピースデポ代表。1951年生まれ。75年東京大学工学部原子力工学科卒。78年マサチューセッツ工科大学プログラム修士修了。工学博士(東京大学)。2010年1月より2014年3月まで内閣府原子力委員会委員長代理を務めた。核兵器と戦争の根絶を目指す科学者集団パグウォッシュ会議評議員として活動が続けている。